

くまざさ

“湖陵に長し百年”は目前 事業は「できる範囲」で

10年前の創立90周年記念式典は釧路市民文化会館で行いましたが、現在までのところ100周年記念事業は観光国際交流センターで開催される公算が高くなっているようです。そのための実行委員会が、昨年10月に開催された同窓会の幹事で内定したあと、11月に再び行われた幹事会におきまして正式に発足し、その席で私が実行委員長を務めることが正式決定いたしました。

ただ、現在までに決定しているのは実行委員長だけで、そのほかの役員はまだ決定していません。これから徐々に幹事会などで人選が行われることになるでしょうが、これらにつきましても各期の同期会や幹事会などで候補者を選出していただければと考えています。

私は90周年記念式典の実行委員会でも副実行委員長を務めさせていただきましたが、その時と比べても現在の釧路市の経済環境は大幅に悪化しているというのが現状ですので、記念事業のための寄付金集めも容易ではないということは十分に覚悟をいたしております。ただ、その当時から10年後の100周年記念事業へ向けましての繰越金の積み立ても多少は

100周年記念事業実行委員長 よしもと まさみ 葎本 正美 (湖陵24期)



進んでおりますので、最終的な寄付金の目標金額というものもそれほど無茶な金額にはならないだろうと考えています。幹事会などにおける当初の記念事業の具体案といたしましては、あちこちに不具合が目立ち始めた同窓会館の改修を目玉事業とすることが考えられていま

したが、ざっと見積もりしただけでも4000万円以上の費用が必要であろうとのことから、現在ではほぼ立ち消えとなり、さらに有意義なさまざまな使い道が検討されているところです。たとえば、設置されはしましたがまだまだ展示作品の寂しい「湖陵ギャラリー」を充実させてはどうかなどのアイデアが寄せられておりますが、これなども今後

同窓会や幹事会で検討を重ねて行く価値があるものと思います。ほかにも同窓会の席などでは「野球部に悲願の甲子園出場を果たしてもらいために高性能のピッチングマシンを贈ってはどうか」というものや「それより、実績のある監督を外部から招いてはどうか」などといった、やや現実性に乏しいもので、さまざまアイデアが寄せられてはおりますが、まだ時間はありますので、ぜひ同窓生の皆様方から素晴らしいアイデアを寄せて頂きたいと思っております。

「できる範囲」の記念事業を

同窓生のどなたにとりましても、母校の「創立100周年」という記念すべき慶事はおそろく一生に一度のことになるでしょう。厳しい経済環境の中ではありますが、決して無理をせず、同窓会館の反省を生かしてしっかりと地に足の着いた事業計画を進めますとともに、薄く広く、着実な資金集めにも同窓生の皆様のご協力をお願い致します。

「できる範囲」での記念事業をめぐらし、でき得るならば祝賀会などのある、肩肘の張らない楽しいものにしたいと考えております。

そのためにも全同窓生の皆様が輝かしい「湖陵百年」の佳き日に向けまして、心をひとつにして意識を高めあって戴くとともに、実行委員会の事業活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

取材・西村貞広 (湖陵30期)

目次

頑張る現役生……………	2頁	同窓生ニュース……………	6.7頁
同窓会だより……………	3頁	野尻静さんを偲ぶ……………	7頁
「釧中物語」徒然……………	4.5頁	追悼・永田秀郎先生、編集後記……………	8頁

頑張る現役生

昨年、湖陵高校の生徒たちは、「文武両道」を胸にひめ、各大会で活躍しましたので、その一部をご紹介します。星 匠（湖陵30期）

陸上部がインターハイ出場

昨年夏、奈良県で開催された「近畿まほろば総体（インターハイ）」に、陸上部の里見萌さん（3年）が200メートルに出場し、準決勝まで進みました。また、女子400メートルレーにも、安達朋未さん（3年）、佐渡穂菜美さん（同）、湊百絵さん（同）、里見さん（同）が挑みました。全道大会で活躍した赤坂真優さん（1年）さんは、脚のけがのためインターハイでは走る機会がなかったものの、今後に大き



インターハイに出場した前列左から、佐渡さん、里見さん、安達さん、後列左から湊さん、赤坂さん

な期待がかかります。

里見さんは、200メートル予選で24秒95の自己ベストをマーク、準決勝に駒を進めました。ところが準決勝を前に雷が鳴るなど天候が急変、コンディションが悪くなり、記録が伸びず、決勝に残ることができませんでした。大学への進学も決まり、里見さんは、「大学では走りを極めたいですね。目標はオリンピック出場です」と次の目標に照準を合わせています。

一方、400メートルレーの1走、安達さんは、昨年の春先にはけがをしてしまい、最後の高体連では涙をのみました。それだけに、インターハイにかける思いは人一倍強かったようです。「周りは大い人が多くて、緊張しました」と安達さん。しかし、1走としての役目を果たし、次の佐渡さんにバトンを渡しました。

佐渡さんは、コンディションも最高で、熱心に指導した後藤洋先生の後押しもあり、力走しました。「楽しかった」という佐渡さん、満足の走りでした。

そのままの勢いでバトンを渡そうとしたところ、陸上の神様が暫時、そっぽを向いてしまいました。3走の湊さんが、ちょっとだけ早くスタートしてしまったのです。練習でもバトンの受け渡しには、十分に気をつけていたのですが……。しかし、そのあとは懸命の走りを見せました。

アンカーは、里見さん。必死の追い上げを見せますが、結果は49秒88、8位で予選突破は果たせませんでした。

先輩たちの走りをじつと見ていたのは、赤坂さんです。赤坂さんは、全道大会決勝で1年生ながら1走を任され、インターハイ出場に大きく貢献しました。「準決勝進出は」なんとかなる」と最後まで声援を送っていました。しかし、先輩たちの走りを、しっかりと目に焼き付け、今は「200メートルインターハイ出場」を目標に、トレーニングに励んでいます。

後藤先生によると、インターハイに出場した佐渡さんと里見さんは、景雲中学時代に全道大会2位のリレーメンバーで、惜しくも全国出場を果たせず、悔し涙を流しました。高校に入り、再度チャレンジして全国切符を手にししました。4人は、「思いはかなう」という姿を先輩たちに残し、卒業していきます。

川村君も将棋で全国へ

3年生の川村卓史君は、昨年6月、札幌市内の北海道将棋会館で開かれた第22回全国高等学校将棋竜王戦北海道大会に出場し、見事に初優勝を果たし、全国大会へ進出しました。道大会には34人が参加し、スイス方式5回戦を戦っての栄冠でした。

川村君は、小学校4年生から将棋を始め、釧路駅近くにある将棋道場に通い、実力をつけました。中学校時代から全国大会も経験

しました。湖陵高校に入学後すぐの2007年7月、1年生ながら高文連の全道大会・団体戦に出場しました。一将は鈴木健吾君（当時1年生）、二将は川村君で、三将は当時3年生の山本晃君でした。ここでは全勝し、全国大会のキップを手に入れましたが、島根県

で行われた全国大会では、46チーム中17位でした。

川村君は、相手の攻めをしつかりと受け止め、じわじわ攻めていくタイプです。昨年8月、福岡県で行われた全国大会には、52人が予選に出場しました。ここでは2連勝を飾り、本戦の26人枠に入りました。本戦では残念ながら、1回戦で敗れましたが、得るものが多かった大会だったようです。

湖陵高校には、現在将棋部がなく、同好会です。3年生の川村君が引退すると、2年生2人しかいなくなってしまう。将棋部になることへは、後輩へ託し、卒業します。

川村君は今後について、「一般の部でもぜひ全道の代表として全国へ」と将棋を続けていく決心は固いようです。



将棋で全道チャンピオンになった川村君

同窓会だより

釧路同窓会 500人が旧交温める

平成21年度釧中・釧路湖陵同窓会総会が、昨年8月8日(土)、釧路キャッスルホテルで開かれ、同窓生など約500人が参加して、旧交を温めました。

総会では、栗林延次会長(湖陵17期)が、「開校100年をあと3年後に迎えます。みなさまのご協力をお願いします」とあいさつしました。議事の中で、開校100周年に向けて、釧路湖陵高校内に同窓会と学校の連携を密にするための事務局を設置することが報告されました。

このあとの懇親会は、湖陵27、37、47期が当番です。ステージでは、チャアリーダーや合唱部、器楽部が演奏やパフォーマンスを披露しました。各テーブルでは、高校時代や近況などの話で大いに盛り上がっていました。

星 匠(湖陵30期)



東京湖陵会の正礼喜久雄会長(湖陵21期)と札幌湖陵会の伊藤拓磨会長(同)の乾杯で懇親会スタート



毎年華を添えるチャアリーダー



美しいハーモニーを先輩に届ける合唱部



息もぴったりの演奏を繰り広げる器楽部

各地区同窓会の予定

東京湖陵会

2010年6月19日(土)

日本青年館

問い合わせは(メール)

tokyokoryo@ac.auone-net.jp

札幌湖陵会

2010年7月3日(土)

ホテルロイトン

問い合わせは(伊藤拓磨氏=湖陵17期)

011-885-1565

関西湖陵会

2010年4月17日(土)

大阪弥生会館

問い合わせは(今井善紀氏=湖陵11期)

072-762-6793

釧中・湖陵同窓会

2010年8月14日(土)

会場未定

問い合わせは(星匠=湖陵30期 メール)

hoshi@news-kushiro.jp

※日程や場所などは変更する場合があります。

問い合わせ先でご確認ください。



総会当番期27期の席

十勝同窓会 十勝でも

帯広では、昨年10月25日、第47回十勝地区釧中・湖陵同窓会(佐藤文俊会長=湖陵17期)の総会及び交礼会が、開かれ、釧路から駆けつけた島本幸一幹事長(同19期)、佐藤文昭会計長(同22期)も含め、21人が出席し、親睦を深めました。

総会では、開校100周年に、何らかの方法で協力していく方針が確認されました。

星 匠(湖陵30期)

『釧中物語』 徒然



釧中32期・湖陵1期 奥田 達也

肺結核一家

釧中（旧制釧路中学）に入學した時、ごく近所の齊藤病院院長夫妻に招かれた。

星座表など、当時には珍しい貴重な品物を私に見せて、丁寧な説明を加えられる。好奇心の旺盛な年頃だ。どこまでも質問の矢を納めない。それにいちいち答えてく

ださった。その後、間もなく転任され、阿寒町の診療所を転々とされ、いつ

奥田さんの著書『釧中物語』
(釧路新聞社発行)

か消息も絶えた。可愛がられながら、戦中戦後のあわただしいうちに忘れ去ってしまう。そんな私に、

釧中物語の執筆が依頼され、記録を調べているうちに、齊藤病院の一人息子が在学中に病死したことを知った。私が愛されたのはその一人息子の身代わりだったのだ。

父の妹の一人が、駅裏鳥取の大地主、干場家の長男に嫁ぎ、一度父に連れられ邸宅にあがった。一期上の末娘がレコードをかけ、本を見せてくれた。私には縁遠い物ばかり。珍しさに夢中になった。

そんな母娘が、まもなく宮本町の本家に間借りした。干場の長男が死に、追い出されたらしい。綺麗な好きの叔母は室内外を見事なまでに変えた。炬に掛かる自在鉤などピカピカ。暴れん坊の従兄弟連中が泥だらけの足で上がるものなら、叔母の叱声（ちせ）が飛び、室に閉じこめられること屢々。

この母娘と二人の息子らが、釧路在学中に肺結核で亡くなったのを知ったのも『釧中物語』の執筆中。私の長姉を含め、肺病死に奥田家と悪名が付いた。

『進駐軍』に餓首さる

北海タイムス釧路支社時代の結核入院に田島支社長から餓首されたのは、労金から借り入れするた

めのダンス会が、労組結成の烽火と勘違いされたため。本社からの進駐軍といわれた整理部長が、事業部長を兼任したので、部下の私は一人で宣伝カーに乗り、映画館貸し切りの映画とノド自慢を司会、新聞拡張に。または美人投票など悪評の中で、耐え抜いた。学生時代に級長、委員長と出しゃばる性格から適任と認められていた。社内親睦会に「七曜会」と名付けて活版の活字拾いさんらを桜

にして、ダンス会を広く開き、入場料の税金は記者の圧力でなし。いま思い返せば、恥ずかしい青春時代である。

二足の藁の人生

釧中一期生で、中川久平を挙げて胸像まで設置しているが、私は釧路聖パウロ教会の八代斌助氏を尊敬する。「北海文学」同人で後輩の永田秀郎教諭が『跪くひと八代斌助』（春秋社）で綴っておられるが、熱涙を覚える名作である。

釧路新聞社長の片山陸三氏に『釧中物語』を書かせていただき、本業も忙しい40代、二足の藁をあえてやった。「依頼されたら受けて立て」と思う。いま80歳の私に、久しくこなかった原稿の依頼が『釧路春秋』と「くまざさ」からきた。どちらも昔に熱中して

執筆と編集をした時代があった。逡巡^{しゆんすん}している時でない。

仕事は忙しい時に舞い込むもの。でも、やるときは一つ一つだ。易きが先か、難きが先かは、その時のコンディションにもよるし、人にもよろう。また、書きあげて渡す段になって数々の条件を提示されることもある。

「そんなの先に言えよ」と言いたい、文句を言っている暇はない。依頼されたら相手の条件を呑

むのが職人としての条件だ。どんな条件にでも応える。私も大工の倅^{せがれ}。発注者の注文に応える。それが出来ぬようなら、職人ではない。芸術家ではないのだ。

幾多の作品を世に残したい。故に一作でも多く作る。やり直しの作品も、また一作品なのだ。どの子どもどの子も私の可愛い子供らなのだ。

湖陵高校の図書室を見せていただいたが、整然としていて感心さ

せられた。同窓会館（ノアの箱舟）の地下室も立派に整理されていた。だが人影も人の気配もなし。むしろ淋しかった。

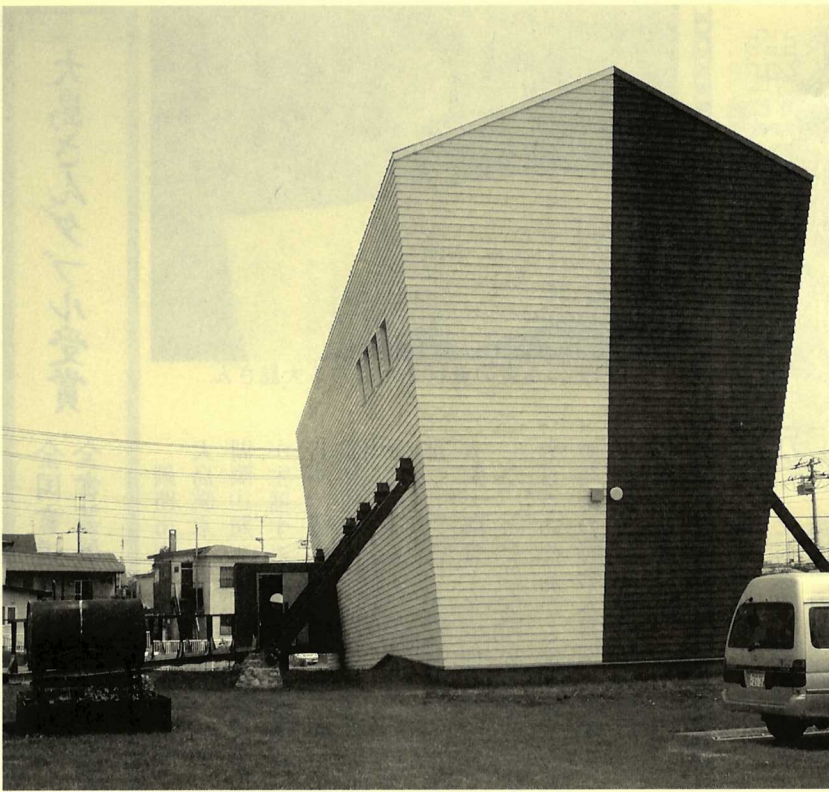
大学進学もよいが、大学で教養と専門を学ぶつもりで期待はずれにならんように。

当初は超満員の教室も、七日と経たぬうち女子学生3、4人が前列に並んでいるだけの淋しさになる。昭和20年代の私の時代と違うかもしれないけど。

湖陵高校一期生として、そう忠告しておく。目標を持って進学せよ。何を目的にしても良い。己の人生で何をしたいか。金になるならないは関係ない。それは他人が考えて与えてくれる。食うことは不思議に出来る。いまなら尚更だ。くだらん心配はするな！

失敗と後悔は人間についてまわるもの。それを恐れては前進できない。まあ、己に甘く、ノンビリ考えて、人生を送ろうではないか。長寿社会になってきたのだし、焦ることもあるまい。

後輩に言いたい。「同窓会の総会に恩師や先輩の席を特設せよ」と。祖父母を尊ばねば、己らも子孫に軽んじられよう。総会を始めて以来、一度も欠席しない私ら一期生からの要望である。



湖陵高校の横にある同窓会館



昨年の同窓会にも多くの同窓生が集まり交流を深めた

大島さんダブル受賞

全国書道展で特別大賞
全書芸展で文化院準大賞



名誉ある賞の賞状を手にする大島さん

釧路市内で書道教室を主宰する大島暎水（本名・留美子）さん。湖陵19期は、全日本書芸文化院が主催する全国規模の書道展で、日本で最大規模の大会となる第59回全国書道コンクールの師範部で最高位にあたる特別大賞（漢字部）、第38回全書芸展で文化院準大賞（臨書）をそれぞれ受賞しました。ともに全国から寄せられた数百点の作品から選ばれました。師範部の特別大賞は、全国からわずか2人しか選ばれないたいへん名誉ある賞です。

井上さん箱根で快走 春からは獣医師めざす



湿原の風アリーナで
井上さん

2010年の箱根駅伝の復路7区に出場し、区間3位の力走をみせた井上陽介さん（日大4年）。
昨年8月、民主党に政権が代わり15位、また、全日本大学駅伝でも1区12位と実力を発揮できました。今年、箱根駅伝では、総合14位でたすきをもらい、軽快な走りを実力を発揮して、12位まで押し上げました。
今春からは獣医学科に転科し父親と同じ獣医師を目指すそうです。今後の活躍が期待されます。

湖陵58期が1月にふるさとに戻り、釧路地方陸上競技協会の強化練習会場を訪れ、地元の中・高生選手たちを激励しました。

卒業設計が金賞 宮城島さん 釧路の資源生かし



協力・釧路新聞

昨年の春、東京工業大学工学部建築学科を卒業した宮城島崇人さん。湖陵57期の卒業設計「Complex of phenomena」が同大学大岡山建築賞金賞を受賞するとともに、同大学と東京芸術大学、東京大学の合同公開講評会で岸健太賞を獲得しました。卒業設計では夕日や霧などふると釧路ならではの資源を生かし、和商市場を観光客や地元の人々が利用する和商市場を人が集まる十六番倉庫や芸術館、観光国際交流センター、公園などが並ぶ幣舞橋とともに移転することを提案しています。
将来は建築家として、釧路のま

滝野さん官房副長官



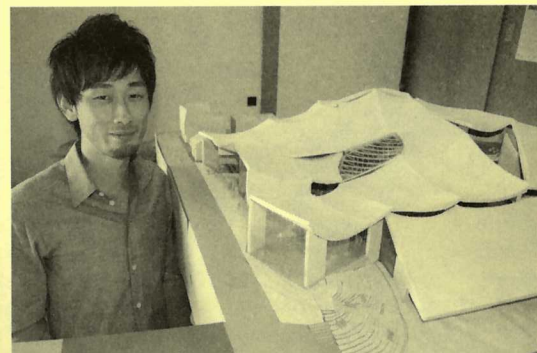
滝野さん

昨年8月、民主党に政権が代わりましたが、総務省前事務次官の滝野欣弥さん。湖陵18期が、事務担当の官房副長官となりました。
滝野さんは、函館市出身で湖陵高校から、東大法学部に進学し、旧自治省に入省しました。

お疲れさま武田先生

バスケット指導20年

釧路湖陵高校男子バスケットボール部の顧問を20年間にわたり務め、昨年度で定年退職を迎えた武田正教諭の退職激励会が昨年2月に釧路市内で開かれ、同部の卒業生が多数駆け付け、これまでの指導に感謝するとともに、今後の人生にエールを送っていました。
武田教諭は厚岸潮見高などで18年間にわたりバレーボールを指導、89年に着任した湖陵では、専門外のバスケット顧問に就任しまし



釧路のまちづくりにかかわりたい、宮城島さん

た。その後監督となり、92年度の全道新人大会で優勝するなど、強豪校の一角へと押し上げました。20年間の戦績は451戦302勝149敗（勝率67%）です。多くの教え子に囲まれ、武田教諭は無量の様子でした。



記念写真の席で武田教諭

東京で個展

山本さん(湖陵14期)



「湿原の聖人」といわれ、東京出身で鶴居村チルワツナイに住んでいた故長谷川光二さんの三女で、釧路湖陵高校14期の山本福子さんの個展が、東京都内で昨年1月に開かれました。Ⅱ写真Ⅱ

山本さんは、東京芸術大学を卒業後、都立青山高校で美術教師として41年間教鞭をとってきまし。今回は退職する記念にと、片野良一さんら同期の有志と青山高校美術部OBが企画しました。

釧路芸術館でデュオコンサート

釧路湖陵高校在学中に出会い、音楽の道に進んだ石橋圭子さん(ピアノ)Ⅱ湖陵54期Ⅱと斉藤佳奈美さん(クラリネット)Ⅱ同Ⅱによるデュオコンサートが昨年12月に北海道立釧路芸術館アートホールで開かれました。Ⅱ写真Ⅱ

人は北海道教大札幌校芸術文化課程音楽コースを卒業しました。この日の演奏会で2人は、A・メサジェの「コンクールのソロ」などを一緒に演奏し、聴衆は2人が奏でる軽やかな音色を楽しんでいました。



天衣無縫の人

野尻瀨氏逝く

いろいろな方にお会いし、お世話になったが、野尻瀨さんⅡⅡ 釧中12期Ⅱ程に面白く、明るく世話好きな人はおるまい。ひょうひょうとして捕らえづらい。抱いた子に顔を殴られようと平気な顔のまま話を続けられる。大学は卒たものの職もなく、家に居づらいつき、野尻さんの後について、各会合へ出席した。「若僧が」と弟子屈町の俳人木下春影に嫌みを言われたが、そ



の息子の面倒を後年に私がするとは世の中、面白味があるというものだ。

釧中に7年間も留年したのは病のため。同期生が多く、地元で短歌を始め、刑務所指導など人の嫌がるような世話をする心の広さ。とても余人に求むべくもない。良い意味の奇人変人と

唐川さんニューアルバム

シンガーソングライター唐川真さんⅡ湖陵32期Ⅱが昨年8月にニューアルバム「FUSEKI」をリリースし、世代を超えて親しみやすい好評です。

唐川さんは釧路湖陵高校卒業後、大阪芸術大学に入学。1996年に「君が好きだよSong」で、シンガーソングライターとしてソロ活動を開始。99年にリリースしたベストアルバム「マルコ・ポール」はインディーズの売り上げランキング2000年7月23日付で第1位を獲得しました。

唐川さんは「同級生が釧路で責任ある地位に就いて頑張っている。僕も頑張っていることがアルバムを通じて伝われば」と話しているそうです。

百周年へ合同幹事会

2年後の100周年に向け、事業内容を話しあう、合同幹事会が昨年11月に、釧路プリンスホテルで開かれました。Ⅱ写真Ⅱ実行委員長には、葎本正美さんを選出しました。同窓会事務局からは、湖陵高校内に100周年の作業を行う部屋を設置したことが報告されました。詳しい事業については今後、詰めていくことになりませんが、まずは、各期で名簿をまとめる作業が重要です。星匠



(湖陵30期)

大鵬が文化功労者

元横綱大鵬が昨年秋、角界初の文化功労者に選ばれた。ガキのころ「巨人、大鵬、卵焼き」が大好きだった団塊の世代として嬉しい。私が小学4年の時、しこ名の納谷で釧路市立旭小学校の土俵を訪れた時は痩せて長身の美青年、まさか将来、昭和の大横綱大鵬となるとは、思ってもみなかった。

私が小学6年の時、釧路でTV放送が始まり相撲中継が楽しみの番組の一つであった。相撲中継で「横綱大鵬 北海道川上郡弟子屈町出身」と場内放送され、釧路の地名が昭和46年まで全国に11年間も鳴り響き、誇りに思った。

相撲の「柏鵬時代」を築き、女性・子供ファンを増やし、大鵬が残した幕内32回の優勝など大記録の輝きは今も失っていない。

慈善奉仕活動に協力を惜しまず昭和44年から40年間にわたり、日本赤十字社を通じ、全国に延べ70台の血液製剤輸送車「大鵬号」を寄贈した功績は誰にも出来ない努力の人、大鵬の汗の結晶。

弟子屈町川湯温泉には昭和59年に開設した川湯相撲記念館があり、釧路の誇り、大鵬の栄光を見学できる。

田巻恒利(湖陵18期)

演劇青年

永田秀郎先生のこと

コートの人でした。いつも必須の上着としてコート（ステンカラーの黒か灰色のコート）を気軽に羽織り、東洋人の笑顔を投げかけて現れる人でした。

永田秀郎先生が病を得て急逝されて半年が過ぎようとしているが、療養先が都内の病院であったことや葬儀もそちらで終えられたことなどもあり、今もって「そう言えばしばらく会っていないな」位の感覚でいる。末広を歩くコートの後姿に先生かと、つい。

永田先生には、芝居と酒の飲み方を教わった。3年間の湖陵高校時代、国語の授業は幸か不幸か一回も受けていない。担任でもない。これをもって教え子と自称しているものか。

出合いは、高校1年の冬に私が（先生たちが主宰する）市内の劇団「どらまぐるうぶ」に入団した時からだ。しばらくして先生から役者が足りないので高校の演劇部に公演を手伝ってくれと頼まれ、渋々、手を貸した。当時、湖陵高校演劇部は実質的に休部状態に近かった。従って、演劇部には入っていないかった。

「造反有理」の政治の季節が鉦路でも熱病のように広がって、ベトナム戦争を背景とした上

演作品をめぐる議論から放課後の教室で「大衆団交」騒動が起き、その余波からだった。次の年、活動再開を許され文化祭で上演した作品（先生に頼まれ出演した）は、劇中でワルシヤワ労働歌、インターナショナルが歌われる、正真正銘のプロレタリア演劇。

永田先生は柔軟であり感激屋であり時に迎合的ですからある。しかし、同時に常に理想肌の勉強家だった。俗物性を徹底的に完膚なきまでに批判する言葉に、少々大人気ないかなと思う時もあった。「青年」がそこにいた。

先生から舞台に出てほしいと二度目に頼まれたのは、7年前、郷土出身の劇作家佐佐木武観の作品上演だった。長く演劇から遠ざかっていたが、あっさり「ハイ」と返事したら先生は驚きながら大変喜んでくれた。その後、声がかからなかった。仕事が忙しいだろうと気を遣っていたようだ。こちらは、いつでも先生から頼まれればと考えていたが、3回目の依頼は来なかった。

星光二（湖陵24期）

■永田秀郎先生 1934年鉦路市生まれ。明治大学文学部を卒業。鉦路湖陵、鉦路工業高校で教鞭をとる。劇団「どらまぐるうぶ」代表、「鉦路春秋」編集長などを務めるなど、演劇、文学界をリードした。2009年8月5日、東京都内で死去。75歳

近代化産業遺産に認定

経済産業省は、昨年2月に弟子

屈町の「硫黄山」（明治20年開業）「鉦路鉄道」（明治20年開通）と標茶町の「鉦路集治監本館」（明治18年建築）「塘路駅通」（明治23年建築）を近代化産業遺産に認定した。鉦路集治監は道内で樺戸（月形町）空知（三笠市）に次いで設置され、囚人の過酷な使役は、内陸部の幹線道路開削など内陸開拓の誘導と初期インフラ整備に貢献した。

安田財閥の基盤を成し明治23年、鉦路港の特別輸出港指定に結ぶ「硫黄山」の存在は、その後明治32年の普通貿易港指定など鉦路市発展に重要だった。道内で2番目に開通した「鉦路鉄道」（硫黄山・標茶間）は廃線後、その一部が鉦網本線に生かされた。

駅通は北海道独自の制度で、鉄道敷設前の旅客の宿泊と輸送を担い、終戦の年まで残った。

今日、歴史ブーム、遺産ブームにあり、地域おこしに結びつけたいが、地元の訪問者受け入れ態勢は、どうなっているのか心配だ。近代化産業遺産の保存とガイドの養成が肝要です。

田巻恒利（湖陵18期）

編集後記

▼昨年の「政権交代」で行政刷新会議が組織され、11月、省庁の22年度予算概算要求に対する役人と事業仕分け人とのやりとりをTVニュースで見えて驚いた。役人OBが財団や公益法人に天下り、高額報酬で税金を略取の噂は本当だった。独立行政法人・公益法人・財団の名の下にバカ役人は私腹を肥やしていた。佐良直美の歌ではないが「私のためこの世はあるの」を謳歌。羊のようにおとなしい国民は「コノー税金ドロボー」と怒ってよい。▼経営再建中の日航の公的支援に対する国民の怒りは日航OBに届いてないらしい。公的支援の条件として日航の企業年金の減額は「憲法で保障されている財産権、生存権が侵害されるので訴訟する」とOBが吠えていたが、全日空の企業年金が月額8万円に比べ日航は25万円と、余りにも非常識だ。倒産はあり得ない「親方日



前列左から田巻恒利、星光二、川端紀一、増子正樹、西村貞広、後列右から増子正樹、田巻恒利、奥田達也

の丸」氣質に浸る、こんな企業はブツつぶした方がよい。▼さて新しい編集委員、西村貞広さん（湖陵30期）をご紹介します。西村さんは編集・出版などを業務とする「オフィスACT」の代表を務め、現在、道新火曜夕刊の地元PR欄を担当し活躍しています。地元の美味しい情報に詳しいだけでなく、当「くまざさ」にとっても頼りになります。皆さんよろしく。

田巻恒利（湖陵18期）

鉦路湖陵高校

〒085-0814
鉦路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuhpinfoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次（湖陵17期）
- 同窓会幹事長 島本幸一（湖陵19期）
- 同窓会会計長 佐藤文昭（湖陵22期）
- 編集委員長 星 匠（湖陵30期）
- 編集委員 川端紀一（湖陵11期）
- 編集委員 増子正樹（湖陵20期）
- 編集委員 渋谷倫之（湖陵26期）
- 編集委員 西村貞広（湖陵30期）
- 編集事務局長 田巻恒利（湖陵18期）

くまざさ編集委員会

〒085-0014
鉦路市末広町2丁目4番地
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX
0154 (23) 0242